



武井敏輝主任

当者は「高度な医療を学べる環境をPRしてきたことが功を奏したのではない

医療最前線 陰の立役者

県立中央病院から

(310)

山梨県立中央病院は若手医師の確保に向け、採用活動に力を入れている。同病院に在籍する医師免許を習得して2年目までの研修医は、独法化前に比べて2倍以上に増えている。病院担

か」と話す。

同病院は県内外の医学生を対象に、キャンプ(宿泊型見学会)を実施してきた。研修医が2年間病院で学ぶ「臨床研修制度」の研修プログラムを説明し、重篤な患者を受け入れる県内唯一

の3次救急を担う同病院の救急現場を案内。先輩医師と交流する時間も設けている。

足を運ばなかった医学生にも病院の研修環境の良さを伝えている。

24年度に同病院に在籍している研修医は51人。独法化した10年度の研修医の人数は22人で、約2・3倍に上る。このほか、2年間の臨床研修を修了後、後期研修医として同病院で研修を受ける医師は、24年度が49人。10年度(19人)の約2・6倍だった。

若手確保へ採用活動強化

研修医 独法化前比2倍超

や総合周産期母子医療センターがあることなどをPRしてきた。

などを投稿。仕事の流れややりがいなどを発信している。

さらなる情報発信を図るため、インターネットを活用した採用活動にも力を入れる。2020年からはオンラインでの説明会にも参加。ライブ配信だけでなく説明会が終わった後も視聴でき、会場のある説明会に

今春卒業する学生が臨床研修先を決めるマッチングのうち、県立中央病院の総合研修プログラムでは18人が内定。同病院によると、マッチングに参加した全国900病院(大学病院を除く)のうち、同様のプログラムの内定者は10番目に多かったという。

